

□講座□

自校教育のケース紹介

福永 肇

(医療経営管理学科 助教授)

現在, “自校教育” が大学初年度でのカリキュラムとして注目されている^{注1}。児玉善仁・別府昭郎・川島啓二編『大学の指導法—学生の自己発見のために』^{注2}を要約すれば, 「今日の大学生の圧倒的大半が不本意入学者の群になっており, 学生たちは“自分がなぜここにいるのか分からない” 状態で, “自分の居場所” を求めている。授業で自校の良い面も悪い面も, 教員が包み隠さずに思った通りに話すことを通じて, 学生が自分の居場所に気づき納得を生む」と, 自校教育の必要性が上げられている。

本学の場合, 開学10年とまだ歴史が若く, 人々が育んでいく伝統, 校風, 文化は形成途上といえるかもしれない。大学の歴史については, 現在『国際医療福祉大学十年史』の編纂準備が進められている。現時点(平成17年9月)^{注3}で学生が本学の歴史や理念を知ろうとするときには, 大学案内と高木^{くにのり}邦格・日野原重明著『よみがえれ, 日本の医療』^{注4}にて知識を得, 広報誌『IUHW』にて最近の動きを把握するものと考えられる。「どこの学校を卒業したか」ということは, 本人の人生にとって大きな影響を与えるものである。その学校で学び過ごした時間が, 知識のみでなく, 良い意味での自己の誇りとなれば卒業後の人生も自信ある充実したものが期待される。

医療経営管理学科では“自校教育” という構えた目的からではなく, もっと単純に「なぜ大田原に大学があるのだろう」, 「本学はどういう特徴ある大学なのか」という学生の疑問に答え, 学生に自分の大学のことをもっと知って欲しいという目的から次の2つの授業を実施している。

①「国際医療福祉大学の歴史と理念」の授業

②「キャンパス内施設見学」(各学科の実習室, 国際医療福祉リハビリテーションセンター, おおたわら総合在宅ケアセンター, 大学管理施設の見学)
本稿ではこの2つの授業内容を紹介する。

1. 授業「国際医療福祉大学の歴史と理念」

医療経営管理学科 2 年生前期の選択科目「医療における今日的諸問題」にて平成15年度から本学の歴史と理念の授業をおこなっている(図1)。平成15年度では90分一回の授業であったが, 16年度, 17年度は90分を二回担当している。

授業の準備では各施設発行の十年史や広報誌などを収集し, 編集した^{注5}。本稿での事実・解釈の誤謬に対しては, ご指摘, ご指導をお願い申し上げます。

以下は授業の要約であり, 最初に栃木の大学の歴史を時系列で記述する。なお, 誌面の関係上, 最近開設された施設や関連施設は大幅に割愛している。文中のMは明治, Sは昭和, Hは平成を示す。煩雑を避けるため, 例えば明治43年は, M43



図1

と略記した。

(1) 大学を知ることの大切さ

授業の最初に、図 2、3 のパワーポイントのスライドを投影し、学生に「自校について知ろう」と呼びかける。

(2) 西那須野の展開

大学の開設に先立って、栃木では H2 に老人保健施設（以下、老健）「マロニエ苑」が開設された。栃木とのきっかけについて高木邦格理事長は『国際医療福祉大学十年史』にて次のように説明されている^{注6}。

「およそ 20 年ほど前、西那須野町（現・那須塩原市）に温泉が初めて湧出いたしました。たまたまご縁のありました地元出身の衆議院議員である渡辺美智雄先生より、温泉を使って地域復興のための医療福祉施設を検討してくれないかとご依頼がありました。ご存知のように渡辺美智雄先生は、厚生大臣、大蔵大臣、副総理兼外務大臣などを歴任された方で、現在はご子息である喜美氏があとを引き継いでおられます。当時は病院と家庭の間施設である老人保健施設の創設が認められたときでしたので、日本で初めての 200 床のベッドをもつ温泉付きの大規模な老人保健施設のモデル施

設を栃木県の方々がつくられたらいかがかと提案させていただきました。当初は栃木県の医療法人に打診をされたそうですが、なかなかそういう事業を引き受けられる方がいないということで、郷里の福岡県で高木病院を経営していた私に手伝ってくれないかという話をいただきました。これが栃木県との最初のご縁でございます。」^{注7}

H1「医療法人社団平成記念会」が認可され、H2 老健「マロニエ苑」（200 床）と「マロニエ医院」（19 床）を開設。この老健は栃木では 4 番目であったが、モデルケースとして 200 床という大規模老健となった。今日でも 200 ベッド規模の老健は全国で 8 か所と聞いている。

H5 に「社会福祉法人^{ほうゆうかい}邦友会」が設立され、翌年特別養護老人ホーム「栃の実荘」（入所 52 名、短期入所 10 名）がマロニエ苑に隣接して開設された。

一方 H2 にはマロニエ苑の隣地に、「那須西部病院」が開設（現在の国際医療福祉病院旧館の建物）。老健入所者の歯科診療での連携はあったが、この病院は本学とは関係はない。ところが時を経ずして廃院となり、その後西那須野町には病院のない時代が続いた。H10 に平成記念会はこの那須西部病院の認可病床 100 床と空の建物を継承して「国際医療福祉病院」を開設、老健内のマロニエ医院を廃院した。

国際医療福祉大学とはどんな大学？

- ・ 例えば、就職の面接で自信を持って答えられますか？
- 「大学はなぜ栃木にあるのですか？」
- 「附属病院がなぜ熱海なのですか？」
- 「東京の山王病院とはどういう関係ですか？」
- ・ 家族や友人、将来のフィアンセや上司、自分の子供に自分の学んだ大学のことを説明できますか？

国際医療福祉大学とはどんな大学？

- ・ 母校の歴史、理念を知って自分の大学に誇りと自信を持つこと、それはとっても大切なことです。
- ・ 日本にはたくさんの大学がありますが、あなたが学んだ大学はこの国際医療福祉大学なのだから。

図 2

図 3

西那須野では H12 在宅ケアの拠点として「にしなすの総合在宅ケアセンター」が開設され、H14 に国際医療福祉病院の新病棟が完成 (146 床)。新病棟は国際医療福祉大学の臨床医学研究センターとして神経難病、周産期医療等の高度先進医療を実施、栃木県県北の基幹病院の機能を果たしていく。一方旧病棟は研究室、事務室、会議室、歯科口腔外科診療室、精神神経科診療室などに改装された。H15 には OICU、NICU など 60 床を増床し現在 206 床の病床規模である。

(3) 学校法人国際医療福祉大学の設立

高木理事長は大学の設立経緯について、『国際医療福祉大学十年史』に以下のように書かれておられる。「その頃 (筆者注: 老健マロニエ苑開設準備の頃)、栃木県議会では県においてコメディカル (医師以外の医療福祉専門職) が不足していること、特に県立がんセンターでさえ診療放射線技師が不足しているために十分な検診ができず、そのような医療が問題となりました。このような状況を受けて、地元の方々からも医療福祉専門職の養成校をつくるべきだという声が上がっておりました。大学の誘致に対する渡辺美智雄先生やご子息の喜美氏的情熱も、私に伝わってまいりました。また、当時の厚生省では、医療の高度化に対応でき、判断力のあるコメディカルの養成が諸外国に比べて遅れていることや、諸外国ではコメディカルの教育が大学や大学院で行われていることをふまえ、保健医療総合大学構想が出されていました。当初、厚生省は国立で実施したいという意向でしたがなかなか進捗しないため、職能団体とも協力し、県や市の援助を受けるかたちで、この構想を民間で実施することになりました。これが国際医療福祉大学設立に向けての第一歩です。」

栃木県の県北地域には大学がなく、大学誘致の地元要望は強かった。当時は地方都市が“煙の出ない工場”としての大学誘致に熱心な時代である。

S63、大学設立に向けて調査活動が開始され、翌年の H1 に設立構想委員会が発足する。H3 に大学設立準備委員会が発足し、翌年設立準備財団の認可がおりた。

大学は日本での医療福祉専門職の地位向上とリーダー養成が当初から目指され、大学院や研究所の併設も織り込まれた。用地は大田原、黒磯、鴨川、和光などの候補地から大田原が選定され、設立の準備が始まった。当時の文部省とは、「なぜ専門学校でなく大学でなければならないのか」という問答が何度もなされたと聞いている。日本作業療法士協会、日本理学療法士協会の協力を得て、H6 に「学校法人国際医療福祉大学」の設立と大学設置が認可。翌 H7 年、保健学部 5 学科で大学は開学した。

授業では、高木邦格理事長、谷修一学長、大谷^{ふじお}藤郎総長の三人の紹介と、本学がどういう経営方針によって運営されているかを学生に紹介する。

その後 H9 には医療福祉学部 2 学科が開設、医療経営管理学科は日本で最初の医療経営の学科という歴史を担う。H10 国際医療福祉総合研究所開設、H11 大学院 (修士課程)、H13 大学院博士後期課程開設、H17 薬学部とリハビリテーション学部開設と、大学は内容的にも地理的にも発展・展開していく。また H14 に国立熱海病院、H17 に東京専売病院の二つの病院を継承して附属病院とし、臨床教育、実習の充実が図られる。医・歯学部がない大学で附属病院をもつのは茨城県立医療大学 (120 床)、明治鍼灸大学 (104 床) のみと聞いている。

(4) キャンパスの土地の歴史 (金丸^{かねまる}原飛行場)

授業ではキャンパスの敷地の歴史についての話もしている。那須野ヶ原は明治になって開拓がなされた地であるが、大田原^{かねまる}金丸はかつて陸軍の教練用飛行場であったという歴史を持つ。M45、金丸原演習場、厩舎が完成。S9 に陸軍所沢飛行学校不時着陸場となり、S10 には飛行学校教場に指定、金

丸原飛行場（金丸飛行場ともいわれる）が開設された。金丸原とは北金丸、南金丸、奥沢にまたがる平地を指す。以降、所管飛行学校は熊谷、常陸、宇都宮と移りながら、終戦までに数千名の航空士養成をおこなっている。

金丸原飛行場は滑走路を二面有する飛行場で、第一滑走路は全長 1,900m、幅 100m であり、現在の大学 C 棟、F 棟、M 棟あたりを西端とし、東端を金田南中学校とする。第二滑走路は全長 1,300m で、大学南門から那須野ヶ原カントリークラブに向かって延びていた。施設や兵舎は那須神社の道路反対側にあり、現在の JA なすの金丸支所の建物あたりに旧東野鉄道「金丸原駅」があった。

太平洋戦争の初期には宇都宮陸軍飛行学校金丸原教育隊として練習機 30～40 機が配備され、初級滑空機による飛行訓練を行っていた。S19 年 1 月に実戦部隊への編成替えがなされ、学徒出陣の特操隊教育と帝都防衛の戦闘機発進の前戦基地に衣替える。S20 年 6 月には従来の九十七式戦、一式戦（隼）に加え、二式戦（鐘馗）、三式戦（飛燕）、四式戦（疾風）の戦闘機が数機ずつ配備され、帝都防空戦闘に参加する。またこの頃には、金丸原分教場出身者の特攻による戦死者が増加している。

栃木県県北には金丸原飛行場と、JR 黒磯駅南西

4～5km の埼玉に S17 開設の那須野飛行場（黒磯飛行場、埼玉飛行場ともいう）の 2 か所の飛行場があった。那須野飛行場では S20 年 5 月、特攻隊“神鷹隊”が編成され、特攻訓練がなされる。両飛行場間の距離約 11km は戦闘機では 1 分の距離であり、二つの飛行場は中島飛行機製作所大田原工場とともに米国艦載機の攻撃目標とされた。金丸原飛行場は S20 年 2 月 26 日の空襲に続き、7 月 10 日、7 月 18 日、8 月 13 日に空母レキシントン発艦のグラマン、コルセアによる空襲を受けている。終戦により武装解除がなされ、金丸原飛行場跡に開拓団が発足する^{注8}。図 4 の写真は終戦後の金丸原飛行場である^{注9}。

現在、飛行場記念碑が大田原市立金田南中学校校門横にあり、碑文には次のように彫られている。

「かつて、この地は、広漠たる那須野ヶ原の中にある、金丸原大地と呼ばれ、旧陸軍第十四師団の特設演習場の一部であった。（中略）。総面積三百ヘクタール、滑走路の二面を駆使して（中略）数千名に上る空中勤務の精鋭を輩出させた。また昭和十九年に至っては、実践上の重要な基地の一環として多くの特攻機を離陸させている。思うに、飛行学校として十有余年、その間にこの地から巣立った若者の大半が青春の全てを大空に捧げて還

60 年前のキャンパス



図 4

らず、また機体整備に夜を日に継いで尽力した軍人軍属、近隣から動員された学徒及び婦女子の辛酸は筆舌に尽くしがたいものがある。(中略)。この地で学び飛び立ったまま再び還る事のなかった戦友たち、青春の総てを限りない犠牲の中で費やした同胞たちを忘れることは出来ない(後略)」^{注10}

学生には「戦後は田畑であった。平成になり、大学の校舎を建てる槌音が響いた。やがて、わが国で最初の医療福祉の総合大学が出来、医療や保健、福祉の分野を学びたい若者がこの地に集ってきた。昭和の前半に、この地の兵舎に寝起きして飛行操縦を習い、そして南や西の空に飛んで行った若者より、若干年嵩の若者が、60年後の今、同じ土地で、医療や福祉を学んでいる。それぞれの時代は若者に、兵士になること、経済戦士になること、高齢者の支援をすることなどを求める。時代の要請のもとで私達は生きていくが、平和の時代に生きていくことはすごく有り難いことだと、先生は思う。」とコメントしている。

(5)大学の理念

さて自校教育で大切な本学の理念の説明である。当然ながら、私が本学の理念を講ずるのは適任ではない。そこで、開学時の大谷藤郎学長(現総長)の著書^{注11}から大学に対するご意見を編集して学生に紹介している。大谷総長には事前にご了解を頂いたが、その時に次のご教示があった。

「最初に“建学の精神”『共に生きる社会』がある。その精神を実現すべく、“三つの基本理念”『人間中心の大学』、『社会に開かれた大学』、『人間中心の大学』をおいた。大学案内などでは“三つの基本理念”の紹介はあるが、その前提としての“建学の精神”がカットされてしまっている。学生には『共に生きる社会』の精神を伝えてほしい。」

“建学の精神”『共に生きる社会』を大谷総長は次のように説明される。「大学は医療福祉の各種技術を身につけて将来国内外の社会で有用な人材と

して活躍していただくことを直接の目的としています。しかし、それだけではなく、もっと重要なことは、21世紀わが国社会が疾病、傷害をもつ人も、いわゆる健常者も『共に生きる社会』を実現することこそが社会の理想であるべきという根本的理解に立つ、そのような時代の要請に直接応えよう、ということ在建学と精神と致しております。病氣・障害を持つ人も健康に働ける人もお互いに人間としての尊厳・権利を認め合う社会、つまり『共に生きる社会』を築くために役立つ人材を養成する事が国際医療福祉大学の建学の精神です」。授業もこの話の段になると学生は神妙に居前を正すのが分かる。

官立大学には設立者の国・県・市が大学に求める具体的な人材の要請、例えば官吏養成とか産業界のリーダー育成とかがある。一方、私立大学には独自の建学の精神があり、慶応の福沢諭吉の「独立自尊」や関西学院の「Mastery of Service」は有名である。本学の『共に生きる社会』も今後永く礎とされていく本学の精神といえる。

授業では“建学の精神”を説明した後、“3つの基本理念”について大谷総長の著書を引用しながら以下の説明を行っている。

①「人間中心の大学であること」

専門知識や技能の習得に追われるだけでなく、幅広く、バランスのとれた良識ある人間を目指すことを大学の第一義におく。日本人には、人間の尊厳・権利というものについての厳しい認識が欠けている。人間の尊厳・権利を侵す者は許さないという思想を持つ。

②「社会に開かれた大学であること」

大学が象牙の塔に閉じこもるのではなく、地域社会の現場に学び、また大学のノウハウを地域社会現場に惜しみなく還元する大学でありたい。大学は社会に学び、社会に認めてもらう努力をしなければならない。学問を創造的に追及するとともに、地域社会と一体となり、地域の医療福祉のニ

ーズに応えられる大学を目指す。また、地域社会や医療福祉に関わる各界の人々の生涯教育の拠点としても機能する大学にしたい。

③「国際性を目指した大学であること」

医療・福祉分野における真の国際人を育成したいということ。そのためにはいうまでもなく、学問が国際レベルに認知される水準を目指すとともに、国際交流を行うということ。

真の国際人を養成するため、語学教育や留学生の受け入れに力を入れる。国際センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成する大学を実現する。

そして最後に“7つの教育理念”を説明する。①人格形成、②専門性、③学際性、④情報科学技術、⑤国際性、⑥自由な発想、⑦新しい大学運営である。

(6)国際医療福祉大学の特徴

さて、授業では国際医療福祉大学の教育にはどのような特徴があり、学生が誇りとできるのかについての説明を行う。教育が目指す目標、内容、具体的なカリキュラムは時代の要請も反映しながら変化していくものである。授業では創設期に目指していた大学の姿を大谷総長の著書を引用・編集しながら紹介していく。

<医療福祉の総合大学・複合大学>

従来の日本のシステムでは各学科はそれぞれ別個の教育を行ってきました。保健学部は従来から医学部に従属するような形の教育から始まっているし、医療福祉学部の方は文学とか経済といった文系のほうから来ています。国際医療福祉大学はそうではなく、建学の精神で強調するようにそれぞれの閉鎖性を打破って7つの学科というものを『共に生きる社会』という共通の大目標に向かって三大基本理念と7つの教育特色を共通の軸として、アприオリに統合的な形で教育をしています。

他の単科大学に比べ、国際医療福祉大学では他

の科の学生がどのようなことをやっているか、他の科にどのような先生がいてどういう研究をやられているか、しかし『共に生きる社会』を作るという共通目標は同じなのだということが自然に分かってくる。

それぞれの専門学科の特色を尊敬してチームを組んで行く、お互いに認めあって、共通目標に向かってチームを組んで行くという精神を培養することを大学の教育方針にしています。

<豊かな思想性や哲学性に裏付けされた

判断力を養う>

多様な医療・福祉職種の共通の特色は、人間復権という同一目標に向かって相互の連携を図ることにある。したがって教育も、それぞれの専門性を深めさせると同時に、基本姿勢において同一スタンスであることが求められる。同一スタンスとはなにか。

医学教育をはじめ看護教育、コメディカル教育ではこれまで、科学技術とか身体を使ってサービスすることが重視され、人間としての思想性・哲学性を進化させることが不足していた。医療の現状を見れば、先端のテクニックの前に、人間としての正しい判断が何より求められている。

人間としての正しい判断とは、芸術とか道徳、愛とか美、法律とか経済などを統合した全人間的な資質からにじみ出てくるものであり、そういう判断に立たないと、医療・福祉の現実の場において人権無視や医療過誤に至る大きな間違いを犯すおそれがある。

だから、養成校でも大学教育でも、専門的な実務教育だけでは問題が残る。人間の尊厳・権利や歴史、社会の正義など、ラジカルな根源の思想に関心を注ぎ、それなりに体得するリベラルアーツ（一般教養）を併せ教育すること、それも、異なった職種の学生が同じキャンパスで一緒に学習することが望ましい。

その理想を実現しようとしたのが、わが国初め

ての大規模な医療・福祉系の複合大学としての国際医療福祉大学の創設の試みである。

(7)大学の展開

大田原のキャンパスでは H12「国際医療福祉リハビリテーションセンター」開所, H15「おおたわら総合在宅ケアセンター」の開設がなされる。授業では「国際医療福祉大学附属熱海病院」(269 床), 「国際医療福祉大学附属三田病院」(291 床)と関連施設の「財団法人化学療法研究会化学療法研究所附属病院」(199 床), 「医療法人財団順和会山王病院」(75 床), 「株式会社医療福祉総合研究所(国際福祉チャンネル 774)」などを, パワーポイントでの写真スライドを映しつつ説明していく。また公表済みの今後の展開計画についても紹介している。

しかし, 授業もこのあたりになると残り時間がなくなってくるのも事実である(誌面の関係上, 本稿でも説明を割愛させていただく)。その中で, 2 つの附属病院と山王病院については詳しく説明が出来るようにと時間配分には苦勞する。大学と関連施設の施設展開には毎年目覚ましいものがある。この授業を開始して3年が経ったが, 授業も90分×2回では難しくなりつつあるのが正直なところである。

授業の最後には, 学生に自分の大学に自信を持ってしっかり学び, 有為の人材として巣立って欲しいとの激励の言葉をかけて, 締め括っている。

(8)学生の授業評価

講義「医療における今日的諸問題」に対する学生授業評価(H16 上期実施)の中で, 大学の歴史と理念の授業時間に対する学生コメントは以下のとおりであった。「自分の大学のことを知って欲しい」という授業目的は一応果たせているように理解している。

『国際医療福祉大学』についての授業の時とはとも興味を持った。自分の大学について詳しく知

っておく事は大切だと思うので良い勉強になった。」「この大学の成り立ちについても, 他の授業では学ぶ事が出来ないの, これからも続けてほしい。」「学校の歴史はすごく面白かったので続けてほしいです。」「正直, 最初は何で栃木に来なければいけないのか, と思っていました。しかも何で栃木に大学があるのかとずっと不思議に思っており, この授業で大学ができるまでのことを教えてもらって, 有名大学になれば, 結構すごいのではないかと思いました。しかも, 来年薬学部が出来るし, すごい大学になりそうと思いました。」

2. キャンパス内施設見学

本学での教育の特徴の一つに「同じキャンパスに各種のコメディカルが勉学し, 相互の専門職種を理解してチーム医療推進の礎にするということ」があげられる。先ほど引用させていただいた大谷初代学長の著書では, 他の科の学生や先生がどのようなことをやっているかを知り, それぞれの専門学科の特色を尊敬して, 共通目標に向かってチームを組んで行くことが期待されている。繰り返しになるが「異なった職種の学生が同じキャンパスで一緒に学習することが望ましい。その理想を実現しようとしたのが, わが国初めての大規模な医療・福祉系の複合大学としての国際医療福祉大学の創設の試み」と書いておられる。

“キャンパス内施設見学”は医療経営管理学科2年生「医療福祉基礎実習Ⅱ」での内容の一つとして平成15年度から採用してみた。

医療経営管理学科を卒業後, 学生の多くは病院事務職に就くが, チーム医療でのスタッフの一員として当然病院のあらゆる医療専門職のことを知っておく必要がある。学内各学科の実習室を見学することを通じて, 「病院のコメディカルは, 学校ではどのような教育を受けているのかを知る」ことをキャンパス内施設見学の第一の目的とした。また, 本学キャンパス内には様々な施設, 設備が

あるが、学生はその存在を十分には知っていないと推測された。「自分の大学を知ること」、それを第二の目的とした。

平成 15 年度より、キャンパス内の福祉・介護施設として国際医療福祉リハビリテーションセンターとおおたわら総合在宅ケアセンター^{注 12}を見学。その後、各学科の協力のもと、各学科の実習室見学と説明をいただいている。また施設管理の観点から事務局管理課の協力を得て、電気室、空調室、水管理施設も見学させていただいている。現在は、管理(G)棟、大学院(L)棟、国際医療福祉大学クリニック 1 階は見学対象外としている(薬学部(N)棟は平成 17 年度より見学予定)。

医療経営管理学科 2 年生にとっては 2 年間で過ごした学舎ではあるが、他学科の実習室を初めて見たという学生が多い。実習レポートでは学内施設を見て学んだこの内容と共に「自分の大学に感心した」、「他学科が学んでいる内容を初めて知った」という感想が書かれている。特に放射線・情報科学科の実習室で初めて見る MRI, CT, LINAC の医療機器装備は驚きのようで自校への認識を改めるようである。生活実習室、作業技術室、物理療法室、運動療法室、運動学療法室を見て、作業療法士と理学療法士の相違を認識し、看護実習室のベッド回り、視機能療法学実習室の測定機械、介護実習室・生活実習室から看護師、視機能療法士、介護福祉士の仕事を知り、東洋有数の規模を誇る言語聴覚学科の実習施設「言語聴覚センター」では感銘を受けるようである。医療経営管理学科のバーチャルホスピタル・ルームでデータ分析をしている先輩をみて、翌年の自分の姿を認識する。教室のすぐ隣にある国際医療福祉リハビリテーションセンターに約 100 名の障害者の方々が入所され生活しているのも初めて知る学生も多い。デイケアとデイサービスの相違は教室で説明するよりも実際に目で見えるほうが理解は早い。

なお、このキャンパス内施設見学は本年度(平

成 17 年度)から、邦友会見学は従来どおり 2 年実習で行うが、学内実習施設見学は 9 月に実施する一年実習に変更し、各学科実習室見学も半日から 1 日に拡張し充実させた。

以上が「自校教育」と銘打つにはおこがましいが、「自分の大学を知る」ために医療経営管理学科が行っている授業内容の紹介である。

-
- 注1 立教大学、九州大学、新潟大学では教養教育で自分の大学のことを話すという科目が組み入れている。またwebを見る限りでは、岩手大学、岡山大学、大正大学では自校教育が実施されている模様である。
- 注2 児玉善仁・別府昭郎・川島啓二編著『大学の指導法―学生の自己発見のために』東信堂、2004, pp.254-257. ここでは「立教大学100年間の歩み」という授業例が示され、「どうしても好きになれなかったこの大学のことについて、卒業間際に先生の話聞いて、やっと好きになりました。ありがとうございました」などの、自分の居場所に納得した感想がでてくるとの報告がなされている。
- 注3 本稿は平成17年9月に執筆し、その後、同年12月に『国際医療福祉大学十年史』の原稿を参照して修正を行った。
- 注4 高木邦格・日野原重明『よみがえれ、日本の医療』、中央公論新社、2003
- 注5 授業準備として医療法人社団^{こうほうかい}高木病院三十年史』『柳川リハビリテーション学院創立十周年記念誌』、広報誌『IUHW』、注4の『よみがえれ、日本の医療』などを参照したり引用したりした。
- 注6 高木邦格「10周年を迎えて」『国際医療福祉大学十年史』p.4、2006など。
- 注7 福岡県には「高木病院」を中心とする高邦会グループがあり、4つの病院をもつ医療法人社団高邦会、社会福祉法人高邦福祉会、学校法人高木学園が医療・福祉・教育を行っている。
- 注8 金丸原飛行場については北那須野郷土史研究会『那須の太平洋戦争』、下野新聞社、1996を参考にさせて頂いた。
- 注9 出所：『陸軍飛行第244戦隊ホームページ』<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~s244f/index.htm> (許可を得て転写)。
- 注10 金田南中学校校庭に建っている金丸原飛行場記念碑『鎮魂の碑』(S30建立)より
- 注11 大谷藤郎『人間を考える』、国際医療福祉大学出版会、2001、および大谷藤郎『勤み 働きて 神を畏れよ 第二集』、国際医療福祉大学、2000、『勤み 働きて 神を畏れよ 第四集』、国際医療福祉大学、2001。
- 注12 国際医療福祉リハビリテーションセンターは1階“身体障害者デイケア”と3階“なす療育園”を見学。おおたわら総合在宅ケアセンターは1階のデイケア、デイサービスを見学させて頂いている。